

国語科 学習指導案

1. 学年 第2学年
2. 単元（題材）名 季語の力を感じよう 教科書：『高等学校 古典探究』（数研出版）
3. 単元（題材）の目標

- (1) 【知識及び技能】

古典作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。

- (2) 【思考力、判断力、表現力等】

古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりできる。

- (3) 【学びに向かう力、人間性等】

言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

4. 教材観

江戸俳諧の歴史を概観し、俳句のもととなった発句について理解するとともに、それぞれ一時代を担った特色を持つ俳人たちの著名な句を解釈、鑑賞することを主なねらいとしている。また、句づくりの技法やその要点について理解することを通して、みずからが句作をしていくときの参考となるようにしたい。

5. 生徒観

(省略)

6. 指導観

指導にあたっては、様々な和歌や俳諧を丁寧に解釈、鑑賞していくことを基本として行う。第4時からは松尾芭蕉の一句を取りあげ、季節や時刻のもつイメージの違いについて考えさせたい。教員から与えられた解釈を覚えるのではなく、イメージの違いを考える際に、個人で課題に向き合った後、グループでそれぞれが考えたことを共有することで、一人で考えるよりも「より深い読み（考え）」ができることを体感させるとともに、相互の考えを受け止め高め合う楽しさを実感させたい。

7. 単元（題材）の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
古典作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	話し合いを通して、課題に沿って作品の表現の特色について理解を深めるとともに、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする中で、粘り強く和歌や俳諧を鑑賞しようとしている。

○：総括的評価（記録に残す評価）
●：形成的評価（指導に生かす評価）

8. 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準 （評価方法）
		a	b	c	
第1時	- 単元の目標を確認し、見通しを持つ。 - 音読により歌に親しむ。 - 句切れを確認して内容をつかみ、主題を考える。 - 歌の表現の特徴について理解する。	●			句切れを確認して内容をつかみ、主題を考えている。 【知】 （ワークシート） 歌の表現の特徴について理解している。 【知】 （ワークシート）
第2時	- 音読により歌に親しむ。 - 句切れを確認して内容をつかみ、主題を考える。 - 三首の和歌を鑑賞し鑑賞文を書く。	●	○		句切れを確認して内容をつかみ、主題を考えている。 【知】 （ワークシート） 鑑賞文に自分の考えや印象に残ったことなどを具体的に書いている。 【思】 （Google フォーム）
第3時	- 音読により句に親しむ。 - 俳諧・発句についての基礎的な知識を学習する。 - 季語を押さえ句を鑑賞する。	●			句についての基礎的な知識を学習している。 【知】 （ワークシート）
第4時	- 音読により句に親しむ。 - 季語を押さえ句を鑑賞する。 - 松尾芭蕉の句『この道や 行く人なしに 秋の暮れ』を使って、下五を5種（春の朝・夏の夜・秋の暮れ・冬の夜・初日の出）のいずれかに変え、その句の情景を個人で想像してみる。	●	●		季語を押さえ、句の対比構造などを理解している。 【知】 （ワークシート） 句の情景を想像し、自分の考えをまとめられている。 【思】 （ワークシート）
第5時 （本時）	- 下五の種類ごとに班を作り、班の中で自分の考えてきた句の場面や心情を共有し、班でまとめていく。 - ワールドカフェ形式で他の班の考えを聞き、季節や時刻のもつそれぞれのイメージの違いを話し合い季語のもつ効果について考える。		●	●	季節や時刻のもつイメージについて考えている。 【思】 （観察、ワークシート） 話し合いを通して、季節や時刻のもつイメージについて主体的に考えようとしている。 【主】 （観察・Google フォーム）
第6時	- 第5時に扱った松尾芭蕉の句『この道や 行く人なしに 秋の暮れ』を改めて鑑賞する。 - 単元の振り返りを行う。		●	○	季語が季節を表す以外にも役割があることについて表現している。

					【思】（ワークシート） 課題に沿って作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする中で、粘り強く和歌や俳諧を鑑賞しようとしている。 【主】（振り返りシート）
--	--	--	--	--	--

※総括的評価の実施方法について

「知識・技能」の総括的評価については、2学期期末考査で行う。

「思考・判断・表現」の総括的評価については、2学期期末考査にて「季語と時刻が持つイメージについて授業で話し合ったことをもとに400字で論じよ。」という題で論述をさせることで、総括的評価を行う。

9. 本時の展開

（1）本時の目標

季語の力を感じよう。

（季節や時刻のもつイメージについて考えることができる。【思】）

（話し合いを通して、季節や時刻のもつイメージについて主体的に考えようとする。【主】）

（2）本時の評価規準

季節や時刻のもつイメージについて考えている。【思】

話し合いを通して、季節や時刻のもつイメージについて主体的に考えようとしている。【主】

（3）本時の準備物

教科書、ワークシート、クロームブック、筆記用具、授業スライド、気付き用のGoogle フォーム、Google スライド

（4）本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	○前時で考えた句の場面や心情がどのようなものであったかを振り返る。 ○本時のテーマを確認する。	○全員が前時で考えた句の場面や心情を考えられているかを確認する。 『この道や 行く人なしに ○○○○○』 下五を次の種類（春の朝・夏の夜・秋の暮れ・冬の夜・初日の出）に分け、担当を割り振り、解釈することを前時からの宿題としている。	
	季語の力を感じよう。		

	○下五の種類ごとに班に分かれ、本時の流れを確認する。		
展開 35分	○班内の役割を決め、班の中で自分の考えてきた句の場面や心情を共有し、班でワークシートにまとめていく。 ○ワールドカフェ形式で、他の班の意見や考えを知り、季節や時刻の持つイメージについて考え話し合う。 ○書記系の生徒は、クラスルームに掲載されている Google スライドに、句、句意、季節や時刻が持つイメージについて話し合った内容を書く。 【予想される答え】 ・「春の朝」は新しいことの始まりを予感し期待に胸を膨らませているような印象がある。 ・「夏の夜」は、少し怖い印象や楽しいことが終わったことを感じさせる印象がある。 ・「秋の暮れ」は、寂しさや孤独を感じる印象がある。 ・「冬の夜」は空気の澄んだ清々しい印象がある。 ・「初日の出」には、新たな一歩を踏み出す感じやリセットされるような印象がある。 ○季語の力について考え、話し合った内容を発表する。	○班内の役割は司会進行・書記・発表者・タイムキーパーを決めるよう指示する。 ○ワールドカフェ形式のやり方を説明するとともにホスト役等を決めさせる。 ○書記系の生徒に対して、話し合った内容を Google スライドに書いていくよう指示する。 ○2・3班選んで2分程度発表させる。	季節や時刻のもつイメージについて考えている。 【思】（観察、ワークシート）
まとめ 5分	○本時の気付きを Google フォームで答える。 ○次回の学習について見通しを持つ。	○気付きは具体的に書くように指示する。 ○次回のもととなった松尾芭蕉の句を鑑賞することを予告する。	話し合いを通して、季節や時刻のもつイメージについて主体的に考えようとしている。【主】（観察、Google フォーム）